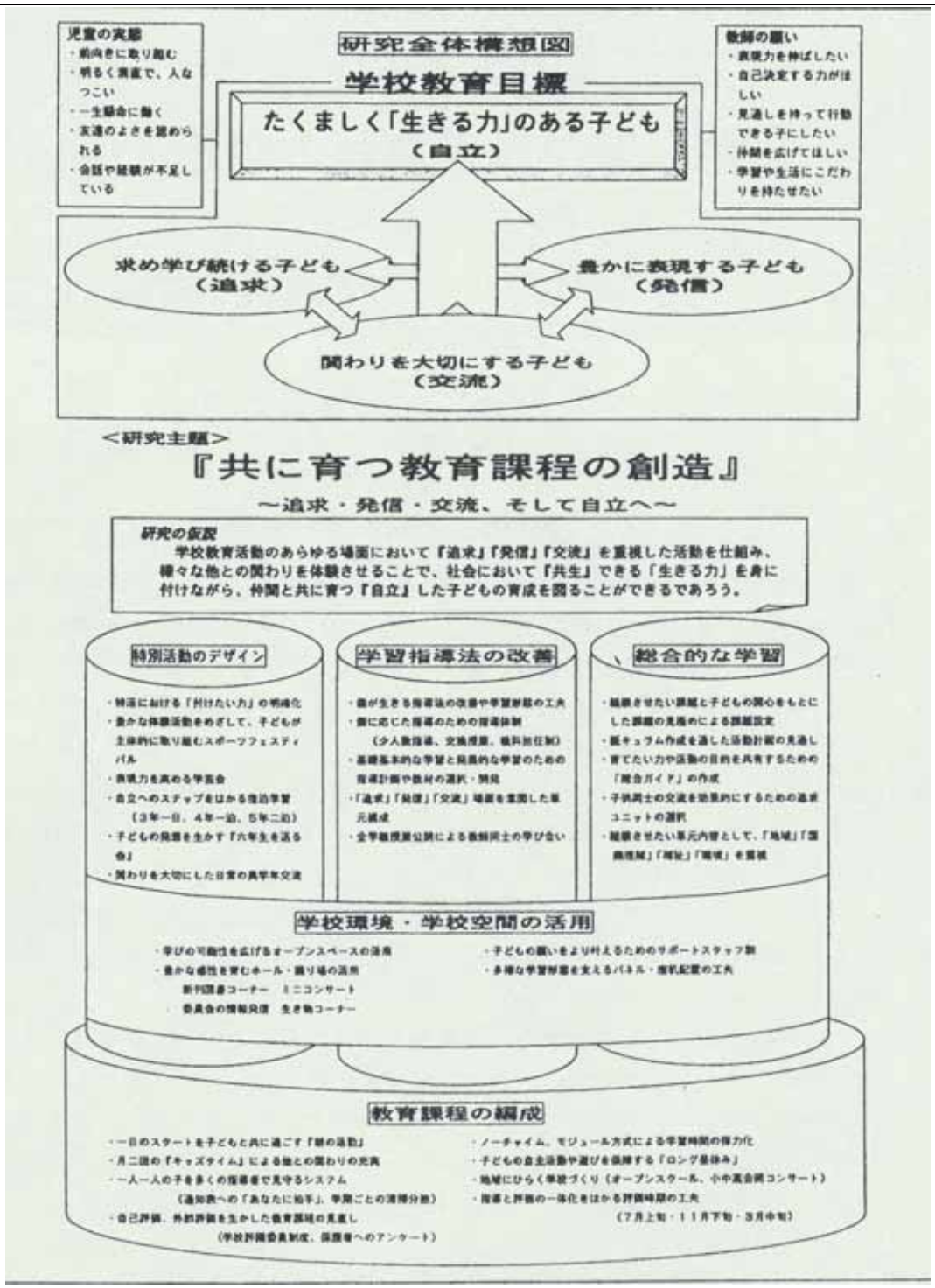
<table>
<tr><td rowspan="2">学校名</td><td rowspan="2">山形市立第六小学校
山形市鉄砲町二丁目９番５５号
TEL　622-0656　　FAX　633-9341</td><td>校　　長</td><td>田口　　由美子</td></tr>
<tr><td>研究主任</td><td>石澤　　陽一</td></tr>
<tr><td>研究主題</td><td colspan="3">共に育つ教育課程の創造（３年次）
～追求・発信・交流、そして自立へ～</td></tr>
<tr><td>研究主題設定の理由</td><td colspan="3">本校では、学校教育目標において、具体的に求める子どもの姿を次のように設定している。

たくましく「生きる力」のある子ども
①　求め学び続ける子ども
②　豊かに表現する子ども
③　関わりを大切にする子ども

私達は、研究における目標も“学校教育目標に掲げる子どもの姿と同じである”ことを確認しながらこれまで研究を進めてきた。二年間にわたる研究を通して、研究において求める子ども像を、具体的に①課題に向かって主体的に『追求する』子ども、②思いを外に向かって『発信する』子ども、③他と積極的に『交流する』子どもとしている。学校教育目標の求める姿『たくましく「生きる力」のある子ども』には、社会の中で『共生』していくために必要な『自立する力』を身に付けてほしいという願いが込められている。つまり、私達は、一人一人の「自立」を通して、社会の中でたくましく『共生』していける人間の育成をめざしているのである。そして、具体的にどんな力を付けることが大事なのかを明らかにしながら、「追求」「発信」「交流」をキーワードとして、『子どもが共に育つ学校』を実現していきたいと願っている。
この願いのもとに、教育課程の見直しを図りながら、望ましい学校づくりの研究を進めてきた。その中で、子ども達は課題に対して前向きに取り組む力や自分達で学習・行事などを進めていく力を身に付けてきた。そして、子ども達の主体性を大切にした教育活動を数多く仕組むことで、自分を取り巻く他（自然・地域・人など）と積極的に関わりながら自分を高めようとする姿が多く見られるようになってきている。
今年度もこれまでの研究成果を生かしながら、他との積極的な関わりを通して**『共に育つ教育課程』**を創造していくことが重要であると考え、上記の主題を設定した。また、副題を**～追求・発信・交流、そして自立へ～**とし、常にめざす子どもの姿を意識しながら教育実践を展開できるようにした。</td></tr>
</table>

目標	子ども一人一人が社会において『共生』するための「生きる力」を身に付け、仲間と共に育っていくための教育課程の在り方を探る。
研究内容と構造図	 研究全体構想図 学校教育目標 たくましく「生きる力」のある子ども （自立） 児童の実態 ・前向きに取り組む ・明るく素直で、人なつこい ・一生懸命に働く ・友達のよさを認められる ・会話や経験が不足している 教師の願い ・表現力を伸ばしたい ・自己決定する力がほしい ・見通しを持って行動できる子にしたい ・仲間を広げてほしい ・学習や生活にこだわりを持たせたい 求め学び続ける子ども （追求） 豊かに表現する子ども （発信） 関わりを大切にする子ども （交流） ＜研究主題＞ 『共に育つ教育課程の創造』 ～追求・発信・交流、そして自立へ～ 研究の仮説 学校教育活動のあらゆる場面において『追求』『発信』『交流』を重視した活動を仕組み、様々な他との関わりを体験させることで、社会において『共生』できる「生きる力」を身に付けながら、仲間と共に育つ『自立』した子どもの育成を図ることができるであろう。 特別活動のデザイン ・特活における「付けたい力」の明確化 ・豊かな体験活動をめざして、子どもが主体的に取り組むスポーツフェスティバル ・表現力を高める学芸会 ・自立へのステップをはかる復活学習 （3年一日、4年一泊、5年二泊） ・子どもの発想を生かす『六年生を送る会』 ・関わりを大切にした日常の異学年交流 学習指導法の改善 ・個が生きる指導法の改善や学習材料の工夫 ・個に応じた指導のための指導体制 （少人数指導、交換授業、教科担任制） ・基礎基本的な学習と発展的な学習のための指導計画や教材の選択・開発 ・「追求」「発信」「交流」場面を重視した単元構成 ・全学級授業公開による教師同士の学び合い 総合的な学習 ・組織させたい課題と子どもの関心をもとにした課題の見極めによる課題設定 ・展キュラム作成を通した活動計画の見通し ・育てたい力や活動の目的を共有するための「総合ガイド」の作成 ・子供同士の交流を効果的にするための追求ユニットの選択 ・組織させたい単元内容として、「地域」「国際理解」「福祉」「環境」を重視 学校環境・学校空間の活用 ・学びの可能性を広げるオープンスペースの活用 ・豊かな感性を育むホール・踊り場の活用 新刊図書コーナー　ミニコンサート 委員会の情報発信　生き物コーナー ・子どもの願いをより叶えるためのサポートスタッフ制 ・多様な学習材料を支えるパネル・掲示記録の工夫 教育課程の編成 ・一日のスタートを子どもと共に過ごす「朝の活動」 ・月二回の『キッズタイム』による他との関わりの充実 ・一人一人の子を多くの指導者で見守るシステム （通知表への「あなたに拍手」、学期ごとの活動分担） ・自己評価、外部評価を生かした教育課程の見直し （学校評価委員制度、保護者へのアンケート） ・ノーチャイム、モジュール方式による学習時間の弾力化 ・子どもの自主活動や遊びを保障する「ロング昼休み」 ・地域にひらく学校づくり（オープンスクール、小中高合同コンサート） ・指導と評価の一体化をはかる評価時期の工夫 （7月上旬・11月下旬・3月中旬）

研究計画	4月	研究概要検討	10月22日	公開研究会
	5月27日	第一回研究協議会	11～2月	授業研究会
	6月11日	第二回研究協議会	2月	研究の成果と課題検討
	7～8月	学習会、研究紀要作成	3月	研究のまとめ